

活用区域

- 活用区域は、集い・交流の創出・促進に必要な区域、ソフトを重視した運営に必要な機能（広場、建物、駐車場等）を配置できる区域として、右図のA～Gの区域（約5ha）とします。
- H・Iは、本用地が100年以上にわたり公共的に活用されてきた経過を踏まえ、公共的施設誘導に向けて検討します。

施設配置

基本的な考え方

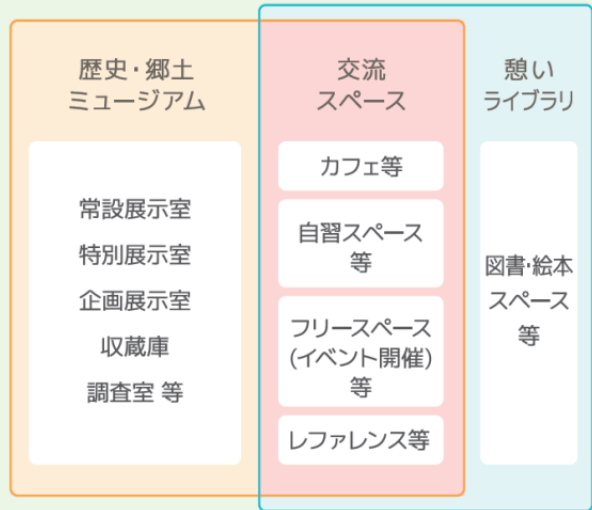
- 活用区域全体を「みんなの公園」とします。
- 「歴史・郷土ミュージアム」「憩いライブラリ」「交流スペース」は、一体の複合機能施設として用地A～Cに配置します。
- 用地D～Gは、集いの拠点の整備効果や利便性を向上するためのプロムナードや駐車場を配置します。
- 施設や管理運営に民間事業者の創意工夫を活かす余地を残すため、施設配置はこの計画では決定しません。

施設規模

みんなの公園（活用区域全体）約5ha

複合機能施設(建物) 約7,500㎡ (2～3階を想定)

- 歴史・郷土ミュージアム …… 約3,000㎡
- 交流スペース・憩いライブラリ … 約4,500㎡



各施設の構成・機能連携イメージ

- 歴史・郷土ミュージアムや憩いライブラリの学習、交流の機能等は交流スペースと融合し、機能連携・利便性を高めます。



ソフト面・事業手法の考え方

- 本計画では考え方を示し、今後、具体的な検討を進めます。

ソフト面

- 集いの拠点の整備目的の実現のため、ハード整備のみならず施設運営等のソフト面を重視します。
- 将来にわたり多くの人に利用していただくため、多様なニーズへの対応、居心地良い空間の創出、社会変化に対応し時間とともに魅力を高める点からソフト面を検討します。

事業手法

- ソフト面を重視した施設とするため、運営を見据えた施設設計ができること、事業全体のソフト面・コストパフォーマンス面の効果・効率性が期待できる等の点から手法を検討します。

今後の進め方

- 今後の進め方は次のとおりです。

年度	H30 (2018)	H31 (2019)	H32 (2020)	H33 (2021)以降
整備基本計画	策定			
用地取得		取得手続き		用地取得
施設整備				設計・整備・運営

- これらの時期はあくまでも想定であり、事業手法等により、変更になる場合があります。

公園 | ミュージアム | ライブラリ | 交流スペース |

八王子駅南口 集いの拠点 整備基本計画

～八王子駅南口に新たな複合機能施設が誕生します～

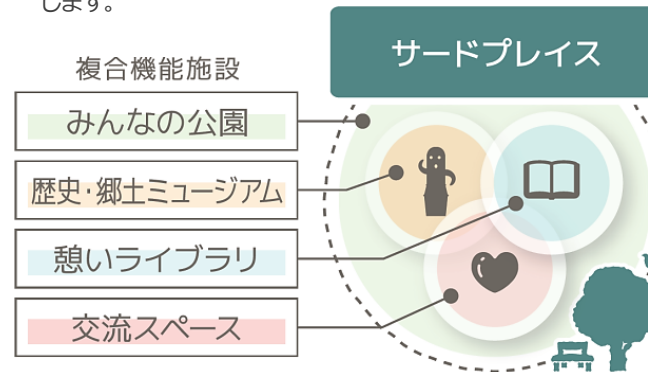
本資料は、八王子駅南口集いの拠点整備基本計画を要約したものです

計画の位置づけ

- 「八王子医療刑務所移転後用地活用計画」(下記参照)の実現に向けて策定する本計画は、「集いの拠点」の活用区域・機能・規模・整備・運営に関する事業手法等の基本的な考え方を整理するとともに、本用地を取得するにあたって国に示す利用計画とします。
- 集いの拠点の整備にあたっては、民間事業者等の提案や創意工夫を活かせる余地を残すよう留意します。

全体イメージ

- 八王子医療刑務所移転後用地活用計画で示した将来イメージ『学びと交流が次の100年をつくる「まちに開いた新たな集いの拠点」の実現に向け、「みんなの公園」、「歴史・郷土ミュージアム」、「憩いライブラリ」に、これらをつなぐ「交流スペース」を加えた、複合機能施設を整備します。
- 「集いの拠点」は様々な学びや交流があり、誰もが心地よく、充実した時間を過ごせる場所「サードプレイス」となることを目指します。



八王子医療刑務所移転後用地活用計画

平成28年3月に策定した、本用地の活用の考え方、導入施設等について整理した計画です。

活用の方針

- QOL^{※1}が高まること、サードプレイス^{※2}を提供することを目指す
- ※1・物質的だけでなく精神的な豊かさを含む、生活の質
- ※2・自宅、職場(学校)と異なる、居心地の良い第三の居場所

将来イメージ

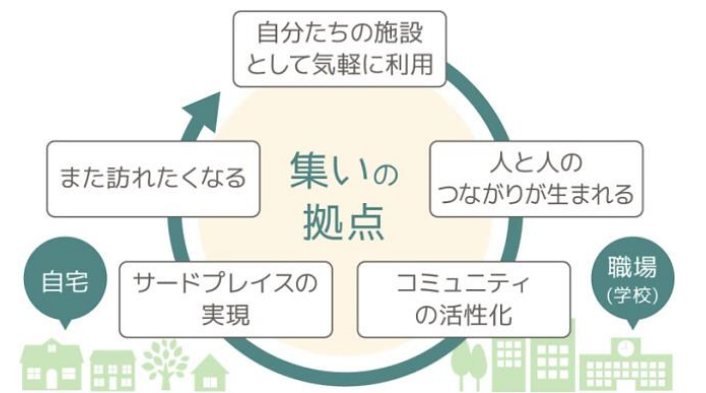
- 学びと交流が次の100年をつくる「まちに開いた新たな集いの拠点」

導入施設

- 防災機能を持った、まちにつながる「みんなの公園」
- 次の100年につながる「歴史・郷土ミュージアム」
- 学び・交流・集いを促進する「憩いライブラリ」

整備目的

- 現代社会において、自宅でも、学校・職場でもない、居心地の良い第三の居場所「サードプレイス」の重要性は高まっており市の将来を見据え、新たなニーズである「サードプレイス」を提供することが、集いの拠点の整備目的です。
- 長期的には、集いの拠点の利用がライフスタイルとなったり、ここで得た学び・交流がまちへの愛着を醸成することによる市民力・地域力の向上や将来の定住人口の維持も重要な整備目的です。



利用者像

- 多世代が集い・交流する場所として、幅広い市民の利用が大前提ですが、次の100年に向けて、若年層(20～30代)の利用促進も重要と考えます。

整備コンセプト

八王子のシンボル・ブランドへの貢献

- シビックプライドを醸成する、市民とまちの結節点を実現する
- 複合性・多様性の確保
 - 複合的要素の相乗効果により、幅広い市民の満足を実現する
- 可変性・継続性の確保
 - 時代に応じたサービスにより、長く愛される場を実現する

八王子駅南口集いの拠点整備基本計画

平成31年(2019年)3月

八王子市 都市計画部 都市総務課

〒192-8501 八王子市元本郷町三丁目24番1号

TEL 042-620-7258 / FAX 042-627-5915

https://www.city.hachioji.tokyo.jp



～ つながりと魅力をつくりだす まちのシンボル ～

みんなの公園



まちの貴重なみどりの中で、イベントができる広場があり、誰もが、ゆったりと心地よい時間を過ごせる防災機能がある公園です。

集い・交流機能

- ・花や緑のなかの心地よい時間や交流を促すイベントがある

レクリエーション機能

- ・健康づくりの機会や子どもの遊び場がある

景観形成機能

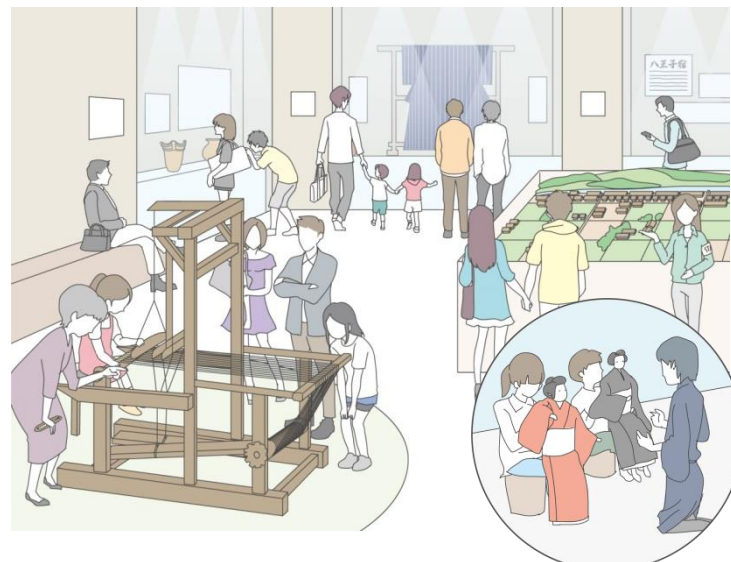
- ・まちとつながる美しい景観や四季を楽しむ景観がある

防災機能

- ・一時的な避難スペース等、災害時の備えがある

～ 地域への愛着や誇りを感じるミュージアム ～

歴史・郷土ミュージアム



まちの歴史文化を学び、見て・触れて・感じることで、八王子への愛着や誇りを育むミュージアムです。

博物館機能

- ・郷土の歴史文化を学び、継承し、愛着を育む場がある

協創機能

- ・市民協働で博物館を成長させる学習・活動の機会・支援がある

ネットワーク機能

- ・大学・博物館等と連携した研究、教育・普及活動がある

次の100年をつくる みんなのサードプレイス



集いの拠点は、防災機能を備えた公園の中にある、学びを支える歴史・郷土ミュージアム、憩いライブラリと、交流を促す交流スペースが一体となった複合機能施設です。

ここでは、体験型の学び、つながりを生み出す交流、災害時に備える防災性を提供し、QOL を高め、拠点全体が居場所となるよう工夫します。そして、多くの方が訪れることで、自宅、職場（学校）と異なる、多様な出会いや創造的な交流が生まれ、コミュニティの核となり、「次の100年をつくるみんなのサードプレイス」になります。



集いの拠点全体としては、学びや交流とともに、防災の3つ機能を備えることで、利用・滞在を促す「サードプレイス」を実現します。

- 学び機能 … 地域資源、図書等のコンテンツ、体験等を通じた学びを提供
- 交流機能 … 利用者同士や家族・仲間とのつながりを生み・育む交流を提供
- 防災機能 … 一時的な避難や災害支援活動を支える防災性を提供

～ また来たいくなる みんなのライブラリ ～

憩いライブラリ



子どもから大人までが、緑を感じる空間の中で、学び、ふれあい、交流できる居心地の良いライブラリです。

図書館機能

- ・世代も世界もつなぎ、感性を育む図書がある

学習・交流機能

- ・学びを通じた交流によって、ひとりでは得られない学びがある

利用促進・滞在機能

- ・会話や飲食ができ、子ども連れやグループにやさしい環境がある

～ 公園、ミュージアム、ライブラリをひとつにする、多目的スペース ～

交流スペース



公園・ミュージアム・ライブラリをつなぎ、発表やマルシェ等、様々な集いや交流が生まれる、みんなの居場所となる交流スペースです。

集い・交流機能

- ・居心地良い空間や歌・踊り等、市民活動の成果発表の場がある

学習・交流機能

- ・自習やスキルシェア等、多様な学びの場がある

レクリエーション機能

- ・健康づくり教室や子どもの居場所・情報交換の場がある

利用促進・滞在機能

- ・座り心地がよく、緑が見える読書空間がある